

# 令和5年度 教育課程特例校 取組のまとめ

## 1 取組の内容

(1) 校内研究のテーマを下記のように設定し、研究を行った。

英語活動・英語科

「相手意識を持ち、豊かに コミュニケーションを図ろうとする児童の育成」

～言語活動の工夫を通して～

(2) 研究の視点

視点1 意欲が高まる学習活動の工夫

視点2 言語環境の充実

を取組の柱として、取り組んできた。

## 2 取組に対する評価

(1) 児童の評価 (アンケート・リスニングテスト結果)

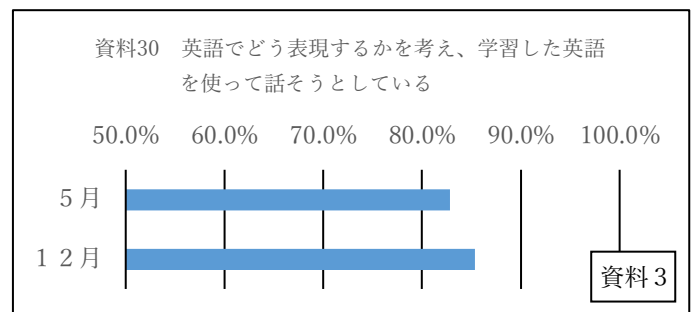
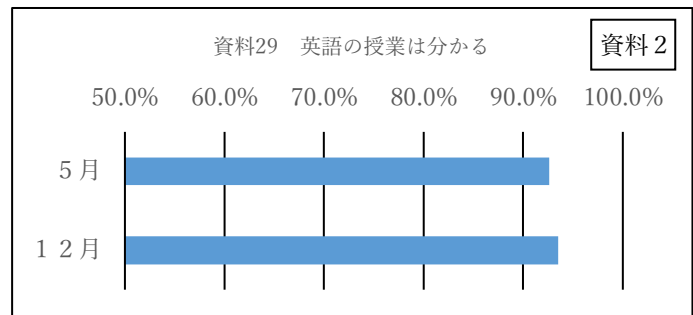
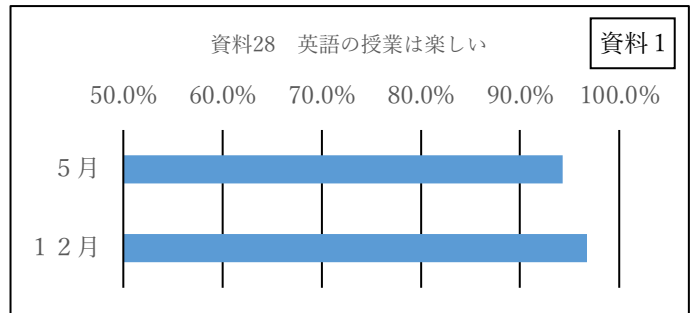
### 【児童は豊かにコミュニケーションを図れたか】

① 児童意識調査の結果から

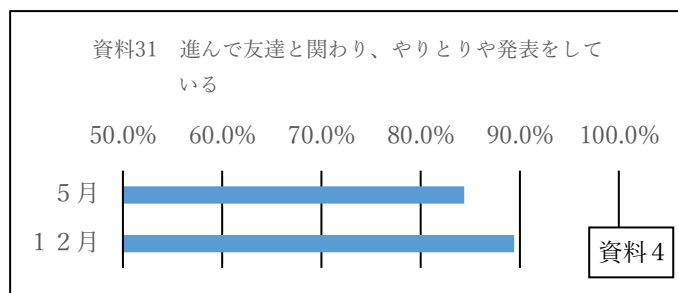
※「とても」と「だいたい」を合わせたプラス評価の割合

児童が豊かにコミュニケーションを図ろうとするためには、その土台となる英語への関心の高さや基本事項の理解が必要である。児童意識調査の「英語の授業は楽しい」については、12月の段階で、96.7%の児童が「とても」あるいは「だいたい」と回答し、5月と比較しても2.4%の伸びが見られる(資料1)。また、「英語の授業は分かる」についても、12月の段階で、93.5%の児童が「とても」あるいは「だいたい」と回答し、0.9%の伸びが見られる(資料2)。

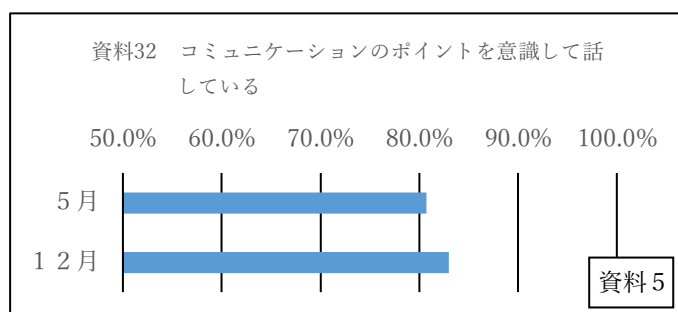
次に、「英語でどう表現するかを考え、学習した英語を使って話そうとしている」については、12月の段階で、85.4%の児童が「とても」あるいは「だいたい」と回答し、5月と比較しても2.6%の伸びが見られる(資料3)。



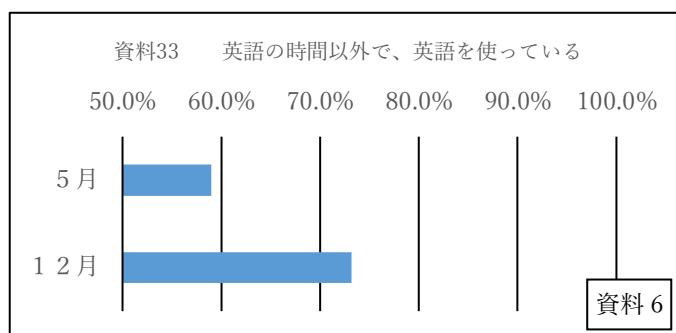
また、「進んで友達と関わり、やりとりや発表をしている」については、12月の段階で「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が89.4%おり、5月と比較しても5.0%の伸びが見られる（資料4）。



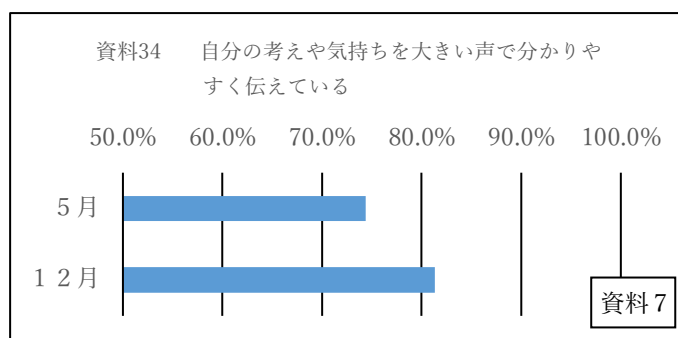
さらに、「アイコンタクト」「スマイル」「クリアボイス」「リズム」「リアクション」「ジェスチャー」などの「コミュニケーションのポイントを意識して話している」については、12月の段階で「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が83.0%おり、5月と比較しても2.3%の伸びが見られる（資料5）。



一方、児童意識調査の「英語の時間以外で、英語を使っている」（資料6）については、5月と12月を比較すると、14.2%の伸びとなった。これは、「英語を使おうデー」や児童集会での英語発表を定期的に行い、英語を使う機会が増えたことが大きな要因として考えられる。



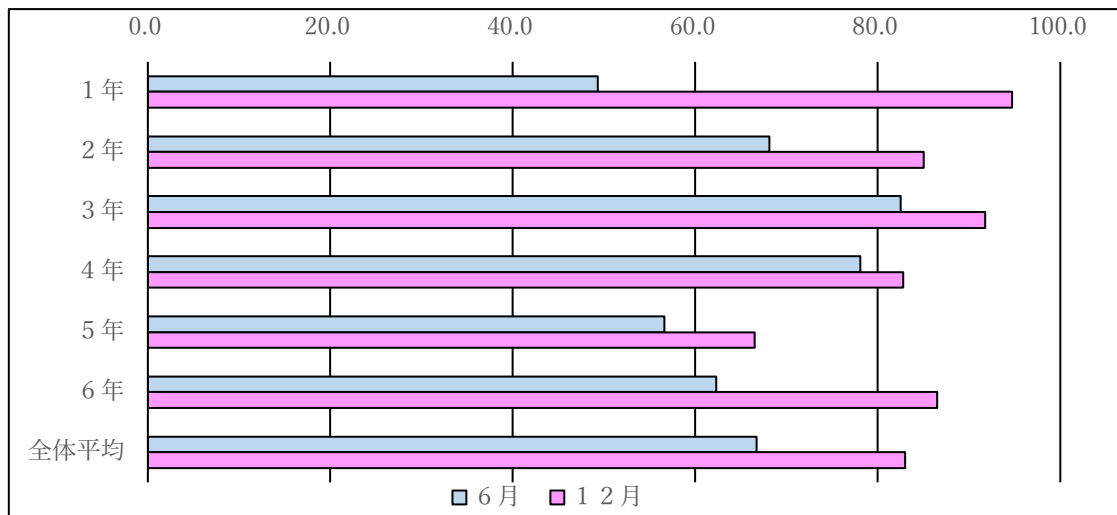
また、「自分の考えや気持ちを大きい声で分かりやすく伝えている」（資料7）については、12月の段階で、「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が81.3%おり、5月と比較して6.9%向上している。



このことから、英語の授業で意識してきた「クリアボイス」等が他教科にもつながっていることが分かる。

## ②リスニングテストの結果から

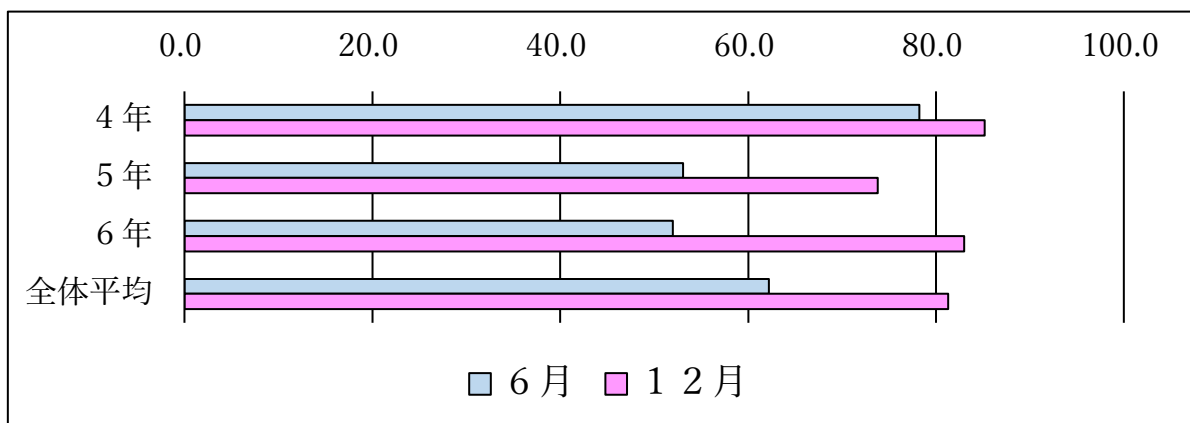
児童が豊かにコミュニケーションを図ることができるようにするためには、相手が伝えたことの概要を理解する必要がある。そこで、本校では、4～6年生は「英検 Jr.」の「リスニングテスト」を、1～3年生は自作のリスニングテストを行い、6月と12月の変容を見ることで、コミュニケーション能力が向上したかどうかを確認した（資料8）。



資料8 リスニングテスト結果（正答率）

資料からも分かるように、学年の伸びに違いはあるが、どの学年も6月よりも12月の方が正答率が高くなっている。また、全体を平均しても、16.3%の伸びが見られた。

また、資料9は、「絵に合う文を選ぶ」という質問に対する解答状況である（4～6年のみ実施）。このグラフから分かるように、学年の伸びに違いはあるが、4～6年のどの学年も6月よりも12月の方が正答率が高くなっている。また、全体を平均しても、19.1%の伸びが見られる。



資料9 リスニングテスト結果（絵に合う文を選ぶ問題の正答率：4～6年）

これらの結果から、コミュニケーションの基礎となる「聞く」ことに関する能力が向上したと言える。

### ③児童の日頃の様子から

児童はハロウィンなど、外国のイベントを体験することで、より英語への関心を高めることができた。また、水曜日に「英語を使おうデー」を設定することで、英語で挨拶しようとしたり、学習した英語を使って話そうとしたりする児童が多く見られるようになった。

(2) 教師による評価

- 本校の自分以外の英語の授業や、スーパーティーチャーの授業を参観することができて、学ぶことが多くあった。
- 事前研を実施し、相談しながら授業づくりができ、とても勉強になった。
- 英語の授業に少しずつ自身ももてるようになった。

(3) 学校運営協議会の評価

- 低学年から英語の授業が実施され、いきいきとコミュニケーション活動をしていて、とても良いと思う。これからは、国際社会になっていくので、英語を話す力が大事になってくるだろう。
- 高学年の英語の授業を見たが、よく英語で話をしていて、6年間の積み重ねの成果だと思う。

(4) 英語教育研究発表会参加者の評価

- 高学年の授業では、たくさんの表現を使って相手に自分の考えを伝えていて感心した。
- 子どもたちが楽しそうに授業に参加していたことが素晴らしい。
- 低学年の発音の良さに感心しました。日頃からよく音声に慣れ親しんでいることがわかりました。